

授業科目(ナンバリング)	生活支援技術ⅡB (DD206) (実践的教育科目)			担当教員	大町いづみ (実務経験のある教員)		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	1年・後期	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、 <u>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</u> どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したたり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識についてプレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどを通して習得する学習とする。この演習を通して、専門的知識・技術を修得し、それらを様々な課題に適用して解決できることをねらいとする。							①②③⑦⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	高齢者を支援する専門職の役割を理解し、ICFの視点を生活に活かすことができる。				定期試験 単元別小テスト 実技チェック	30% 5% 15%	
情報収集、分析力	ICFの視点でアセスメントすることができる。				課題レポート	10%	
コミュニケーション力	利用者を安心・安全にできるコミュニケーション能力を修得することができる。				定期試験 実技チェック	10% 10%	
協働・課題解決力	介護を必要とする利用者を理解し、安心できる介護や生活を実現できる為の方法について考えることができる。 利用者の状況・状態にあったバイタルチェックを実践することができる。				グループワーク ディスカッション 授業態度・参加	5% 5% 10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
「定期試験」(40%)は、合格基準を60点以上とし筆記試験(持ち込み不可)を行う。「実技チェック」(25%)は、バイタルサインの実技試験を評価する。「単元別小テスト」(5%)は、8回目に実施する。「課題レポート」(10%)は、介護実習室で演習に取り組んだ際の「生活支援技術演習レポート様式」を用いて作成し、ポートフォリオ上にてフィードバックを行い学生と共有する。「授業態度や参加」(20%)は、授業中の態度、熱意、グループワークやディスカッション等で評価する。							
授業の概要							
長年医療や保健の現場で看護師と助産師としての経験を持つ教員が担当し現場実践を活かした学修を行う。生活支援とは何かを学び、生活支援技術の基礎として、利用者のアセスメントのためにICFを理解する。さらに演習科目であるため、介護実習室において、演習(バイタルサイン・観察)を実施する。基本的な用語の理解や原理・原則の理解も必要なため、講義中にグループワークやディスカッションを取り入れる。また、知識の確認と技術の習得を判断するための実技テストも行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：新・介護福祉士養成講座7『生活支援技術Ⅰ』 新・介護福祉士養成講座11『こころとからだのしくみ』 中央法規 発行者：莊村明彦 指定図書：介護福祉士国家試験 受験ワークブック2022下 中央法規 「留学生は別途、授業中に指示する」							
授業外における学修及び学生に期待すること							
利用者が送っている生活を理解するために、まずは自分自身が日頃どのような生活を送っているのかを意識的に考えて欲しい。また、一つ一つの行動は様々な動作が組み合わさっていることも意識すること。 バイタルサインや観察項目について実技テストを実施するので、授業の予習・復習として、それらを体験した上で授業に臨まれることを期待する。							

注意点：講義中の私語、携帯電話の使用は禁止とし他者に迷惑をかけること。また欠席の場合は事前連絡を行うこと。バイタルサインの実技チェックの合格が介護実習の要件である。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	生活支援技術のねらいと目的 観察の技法①	本科目についての概要と評価方法の説明、基本的な用語（観察、バイタルサイン等）の基礎知識について学ぶ。	予習：シラバスを読み、本教科の内容を理解する。 復習：バイタルサインを復習する。
2	観察の技法②	バイタルサインの測定を行う（脈拍、呼吸、体温、血圧、意識）	予習：基準値を調べる。 復習：演習した項目を振り返り、レポートを作成する
3	観察の技法③	バイタルサインの測定を行う（脈拍、呼吸、体温、血圧、意識）	予習：バイタルサインの測定法を調べる。 復習：演習した項目を振り返り、レポートを作成する
4	生活支援の理解①	生活支援技術の意味について学ぶ。	予習：教科書（指定頁）を読んでおく。 復習：生活支援技術を整理する。
5	生活支援の理解②	介護の専門性について学ぶ。	予習：教科書（指定頁）を読んでおく。 復習：介護の専門性を説明できる。
6	ICFに基づく生活支援の理解①	ICF とは何か、概要や活用について学ぶ。	予習：ICF の概念を調べる。 復習 ICF の活用について発言できるようにする。
7	ICFに基づく生活支援の理解②	ICF の概念に基づく情報収集項目とアセスメントからその人への生活支援へつなぐための活用について学ぶ。	予習：ICF 環境因子項目について調べる。 復習：各概念のアセスメントに基づく生活支援の重要性を理解する。
8	ICFに基づく生活支援の理解③	ICF の視点に基づくアセスメント、ICF を活用した生活支援について学ぶ。 バイタルサインの小テストを実施	予習：ICF を理解する。 復習：介護のアセスメントや生活支援を理解する。
9	観察の技法④	酸素チューブ、尿道カテーテル、移送について学ぶ。	予習：教科書（指定頁）を読んでおく。 復習：介護上の観察ポイントについて理解する。
10	人生の最終段階における介護①	人生の最終段階にある本人と家族をケアするために経過に沿った支援とチームケアの実践について学ぶ	予習：人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインについて調べる 復習：実践プロセスについて理解する
11	人生の最終段階における介護②	症状緩和（痛み、呼吸困難、倦怠感、口渇）の技術について学ぶ	予習：人生の最終段階における介護の方法を調べる。 復習：症状緩和の方法を理解する。
12	実技チェック①	バイタルサインの実技試験を行う（脈拍、呼吸、体温、血圧、意識）	予習：測定法をイメージする。 復習：実技練習をする。
13	実技チェック②	バイタルサインの実技試験を行う（脈拍、呼吸、体温、血圧、意識）	予習：測定法をイメージする。 復習：実技のレポートを作成する
14	観察の技法 実技チェック	バイタルサインについての実技チェックを行い、チェック後のフィードバックを行う	予習：実技チェック自己評価表を作成する。 復習：実技の再確認を行う。
15	まとめ	これまで学んできた、生活（生活形成、生活経営・管理、生活支援等）、ICF、アセスメント、バイタルサインについての理解を深める。	復習：教科書・これまでに配布したプリントを確認し定期試験に備える。